

オリバー・キャン、パブリックエンゲージメント部門、電話：+41 79 799 3405、Eメール：
Oliver.Cann@weforum.org

後退：10年に渡る世界的な男女平等への歩みが2017年に失速

- 素晴らしい10年間の歩みの中で不良な一年：世界経済フォーラムのグローバル・ジェンダー・ギャップ・レポート（世界男女格差年次報告書）2017によると、2006年に記録を開始して初めて、健康、教育、政治、職場での平等格差が広がりました。
- 全体で68%の男女格差が解消されましたが、同時に職場や政治のそれぞれの分野では男女平等が後退し、逆戻りしています。
- フランス、カナダを含むいくつかの国々では、過去一年で飛躍的な進歩を遂げました。アイスランドは例年通り世界で最も男女平等な国であり、一方アメリカ合衆国はグローバル・ジェンダー・ギャップ指数の順位を4つ落とし、49位に後退しました。
- 報告書全文、解説画像、ビデオなどへのアクセスは[こちら](#)

2017年11月2日、スイス、ジュネーブ-10年間に渡り、ゆっくりではあるが着実な進歩を遂げていた男女間の格差は2017年に停止し、世界経済フォーラムのグローバル・ジェンダー・ギャップ・レポートが2006年に最初に発行されて初めて、世界的な男女格差が広がりました。

本日発行された今年のレポートによれば、全体で68%の世界的な男女格差が解消されました。これは68.3%だった2016年、68.1%だった2015年よりも若干悪化しています。この後退には、報告書の4つの柱：学歴、健康と生存率、経済活動への機会、および政治権限での男女格差の広がりが背景にあります。最後の2つの分野では特に深刻です。これらの分野では大きな格差がすでに存在しており、今年まで最速の進捗を記録していたからです。

進捗状況の現行の比率で見ると、世界的な男女格差の解消には83年であった昨年と比べ、100年かかる見通しとなっています。職場での男女格差は217年解消されない見通しであると、報告書は予測しています。一方、様々な男女平等に関連した研究によれば、より良い経済活動のために多くの国々が悲惨な世界の動向に躍起になっています。全144ヶ国の半数の国々が、ここ12ヶ月でスコアが上昇したと見積もっていました。

「我々は、資本主義の時代からタレンティズム（人主義）の時代に転換しています。全国的レベル、およびビジネスレベルでの競争性は、以前にも増して国や企業の革新性によって決定づけられることでしょう。これらは、女性を重要な力として才能の宝庫に取り込む重要性を理解している者が、最も成功を収めることに他なりません。」と、世界経済フォーラムの創設者であり会長のクラウス・シュワブが述べました。

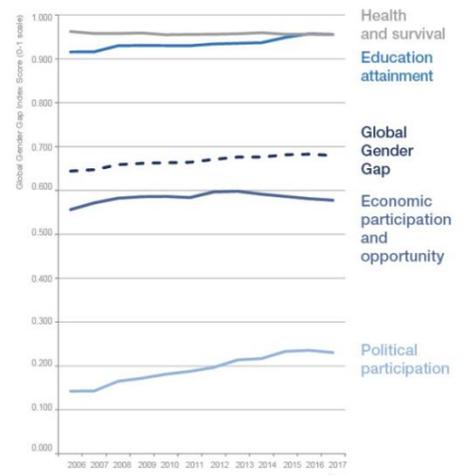
グローバル・ジェンダー・ギャップ指数 2017

東アジアおよび太平洋地域では、68%の男女格差が解消されました。ニュージーランド(9)およびフィリピン(10)の2ヶ国がトップ10に位置し



rank	AVG	score
1. Iceland		0.878
2. Norway		0.830
3. Finland		0.823
4. Rwanda		0.822
5. Sweden		0.816
6. Nicaragua		0.814
7. Slovenia		0.805
8. Ireland		0.794
9. New Zealand		0.791
10. Philippines		0.790

Source: Global Gender Gap Report 2017, World Economic Forum
Note: *2017 rank out of 144 countries



います。一方、地域の経済大国ではあまり進んでいません。100位に中国、日本と韓国がそれぞれ114位と118位となっており、男女平等に対するより顕著な取り組みよりも、さらなる経済上昇を優先する姿勢は明らかです。

グローバル・ジェンダー・ギャップ指数のトップはアイスランドです。ほぼ88%の格差が解消し、9年に渡り最も男女平等の国となっています。今年、アイスランドと2位のノルウェーとの差は、ノルウェーと3位のフィンランドとの差に比べ、さらに広がっています。トップ5には、ルワンダ(4)とスウェーデン(5)が入っています。指標での次の2つの国、ニガラグア(6)とスロベニア(7)は、今年象徴的な画期的進歩を遂げ、80%の格差を初めて解消しました。アイスランド(8)、ニュージーランド(9)およびフィリピン(10)がトップ10を形成しています。

G20(主要20ヶ国)の国は、フランス(11)が男女平等で一番高いランキングであり、続いてドイツ(12)、イギリス(15)、カナダ(16)、南アフリカ(19)、そしてアルゼンチン(34)となっています。アメリカ合衆国は順位を4つ落として49位とグループの下位に位置していますが、6ヶ国もの国々が100位またはそれ以下となっています。その国々は、中国(100)、インド(108)、日本(114)、韓国(118)、トルコ(131)、そしてサウジアラビア(138)です。

それぞれの指標の柱を見てみると、報告書2017年に27ヶ国で学歴での男女格差を解消しています。これは昨年よりも3ヶ国多くなっています。全部で34ヶ国-昨年比で4ヶ国減少では、健康と生存率の男女格差を解消しています。これら2つの柱を達成しているのは、わずか6ヶ国です。経済活動への参加機会では、男女格差を完全に解消した国はありませんでしたが、13ヶ国(昨年比2ヶ国増加)で80%以上の格差を解消しました。政治権限では、男女格差は最も激しく、アイスランドだけが70%以上の格差を解消していました。4ヶ国が50%に迫る解消を実施し、34ヶ国では10%以下の解消にとどまっています(昨年比で5ヶ国減少)。人口比率に換算すると、95ヶ国で政治権限のサブ指標の今年の世界平均(0.227)を下回っています。

「2017年の逆転に転じた男女平等に対する進捗ばかりを見てはいけません。男女平等には、倫理と経済の両方が欠かせません。いくつかの国々ではこのことを理解し、男女格差に対して行ってきた主体的な措置からの配分を確認しています。」と世界経済フォーラムの、教育、ジェンダーおよび雇用のリーダーであるサーディア・サヒディ氏は述べます。

格差解消への時間

現在の進捗比率では、すべての世界的な男女格差の解消には昨年の83年と比較して、さらに1世紀必要です。最も取り組むべき男女格差は、経済と健康の領域です。現行の変化の比率では、さらに217年が経済的な男女格差の解消にかかるでしょう。これは進歩の後退によるものであり、また2008年以降、最も低い評価値となっています。フォーラムの男女格差解消プロジェクトは、世界対話を通じて男女平等の変化を加速し、現在3つの国で推進している国家の官民一体となったモデルを2018年に向けてさらに広げていくことを目的としています。

健康の男女格差の進捗は、まだ明らかではありません。公式で格差は最小ではありますが、進捗は一般的な下方傾向につれて揺れ動いています。今日、この格差は2006年よりも広がっており、これは一部の限定された国々、特に中国とインドで特有の問題を抱えていることによります。最大の進捗状況が発表されたとしても、政治的な男女格差はとて大きく、その解消にはさらに99年かかる見込みです。一方で現在の傾向では、教育分野での男女格差は次の13年でほぼ解消される見込みです。

すべての地域で、男女格差は世界レベルでの進捗は失速しているものの、11年前に比べると減少を記録しています。今日の進捗率では、すべての世界的な男女格差が西ヨーロッパで61年、南アジアで62年、ラテンアメリカとカリブ諸国で79年、サハラ以南のアフリカで102年、東ヨーロッパと中央アジアで128年、中東・北アフリカで157年、東アジアおよび太平洋地域で161年、北アメリカで168年、解消にかかる見込みです。

平等に対する経済的事例

様々な研究では、男女平等の向上により大幅な経済配当をもたらすことが提案されていて、これは直面している様々な経済状況や特定の課題により異なります。注目に値する最近の予測では、経済的な男女平等により、イギリスのGDPに対して追加で2500億ドル、アメリカ合衆国のGDPに対して1兆7500億ドル、日本のGDPに対して5500億ドル、フランスのGDPに対して3200億ドル、ドイツのGDPに対して3100億ドルの経済効果があるとしています。

また、その他の最近の予測では、中国のGDPは2.5兆ドルの経済効果が男女平等から見込まれ、経済参加機会の領域で男女格差が同じ時期に25%解消された場合、2025年までに世界全体のGDPは5.3兆ドルまで増加するとしています。GDPと関連して政府の収入では、さらに追加で1.4兆ドルが世界規模の税収として達成が見込まれ、そのうちほとんど(9400億ドル)が新興経済によるもので、世界的な男女格差の解消によって追加の公共投資の自己金融効果が見込まれると提言されています。

平等に対する経済的事例は、産業や企業レベルでも存在し、さらなる進歩への主要な経路は、部門による現在の不均衡への取り組みが必要となります。LinkedInでの調査では、報告により男性は教育や健康・福祉領域で過小

評価を受け、一方女性は、工学、製造や建設、および情報、通信や技術分野で過小評価を受けています。性別によるこのような領域の違いは、各部門で性別の多様性、つまり革新性、創造性、利潤性をさらに高める機会を失う可能性を意味します。しかし、これらの格差はパイラインプロブレムだけの問題ではありません。例えば、女性のレベルに関わらず専門分野へ登用された場合、男性がさらにリーダーシップをとる地位に君臨していることなどです。その結果、教育やトレーニングでの不均衡に焦点を当てるだけでは十分ではありません。社内の改革が必要なのです。

編集者向け注記

報告書全文 : <http://wef.ch/gendergap17>

ハッシュタグ : #gendergap17

[教育、性別、労働の未来の方向付けを中心とするシステム](#)について

Facebook のフォーラムをフォローする <http://wef.ch/facebook>

Twitter のフォーラムをフォローする @wef、@davos、#wef

フォーラムの議題について <http://wef.ch/agenda>

フォーラムを購読 **news releases** : <http://wef.ch/news>

世界経済フォーラムは、パブリック・プライベート両セクターの協力で、世界情勢の改善に取り組む国際機関です。政治、ビジネス、その他の社会におけるトップリーダーと連携し、世界・地域・産業のアジェンダを形成します。 (www.weforum.org)